

宇治拾遺物語『小野篁、広才のこと』定期テスト対策問題 | 現代語訳・文法・内容の頻出設問と解答 解答・解説

【読み・語句】

問1 読み：だいいり。意味：天皇の住む御殿・皇居。

問2 「さがなくてよからん」。「悪」を「さが」と読み、「悪（さが）無くて善（よ）からん」と訓読した。

問3 おまえをおいては・おまえ以外には。「放つ」＝除く。

問4 子子子子子子子子子子（「子」を十二個並べたもの）。

問5 ア。「事なし」＝（処罰などの）面倒なことがない。篁はおとがめなしで済んだ。

【現代語訳】

問6 「読むことは、きっと読みましょう（読めましょう）」。「なん」＝強意の助動詞「ぬ」未然形「な」＋推量（ここでは意志を含む）「む（ん）」で、「きっと～だろう・～してしまおう」。

問7 「（恐れ多いことですので、）とても申し上げることはできませんまい」。「え＋打消」＝不可能（～できない）。「じ」＝打消意志・打消推量（～まい）。

問8 「（おまえ以外に）誰が書くだらうか、いや、おまえのほかに書く者はいない」。「か」は反語の係助詞。結びは推量「ん（む）」の連体形。

問9 「どんなものでも、書いてあるようなものは、きっと読めるか（読んでみせるか）」。「たらん」＝完了「たり」未然形＋婉曲「む」（書いてあるような）。

【敬語】

問10 尊敬語（「おはす」＝「あり」の尊敬語「いらっしゃる」）。作者から篁への敬意。

問11 「仰す」（「言ふ」の尊敬語）＋尊敬の助動詞「らる」で、尊敬語を重ねた二重敬語（最高敬語）。地の文なので作者から帝への敬意。天皇など最高位の人物の動作に用いる。

問12 (1) 「（天皇・上皇に）申し上げる」という意味の謙譲語。(2) 申し上げる相手が天皇・上皇に限定されているため、その語を使うだけで相手が変わる敬語だから（＝絶対敬語）。(3) 地の文なので作者から帝への敬意（動作の受け手への敬意）。

問13 啓す（中宮・皇太子〔東宮〕に申し上げる）。

問14 丁寧語（「～です・ます・ございます」）。会話文中なので、話し手の篁から聞き手の帝への敬意。

問15 謙譲の補助動詞（「～申し上げます」）。「呪ひ参らせて」で「呪い申し上げて」となり、動作の受け手である帝（君）への敬意を表す（篁の会話文中なので篁から帝への敬意）。「君を呪う」という内容を敬語で言う点に皮

肉なおかしみがある。

【文法】

問16 イ（推量）。「さが（悪）がなくてよいだろう」。「む」は未然形「よから」に接続している。

問17 終止形：つ（完了の助動詞）。活用形：已然形。直前の係助詞「こそ」（「さればこそ」）を受けた係り結びのため、文末が已然形になっている。

問18 「て」＝強意の助動詞「つ」の未然形（きつと～）。「ん」＝推量の助動詞「む」の終止形（～だろう）。「や」＝疑問の係助詞（文末用法）。あわせて「きつと読めるだろうか」。

問19 ⑨「書かせ給ひて」の「せ」＝使役の助動詞「す」の連用形（おそばの者に「子」の字をお書かせになって）。⑩「ほほ笑ませ給ひて」の「せ」＝尊敬の助動詞「す」の連用形で、「せ給ふ」で二重敬語（にっこりお笑いになって）。根拠：「ほほ笑む」のは帝自身の動作で、人にさせる動作ではないから尊敬。⑨は、立て札の文字は帝が自ら書くのではなく人に書かせたと考えるのが自然だから使役。

【内容・文学史】

問20 （例）札の文字を読むと「さがなくてよからん」、すなわち「嵯峨（帝）がいなくなればよい」という、帝を呪う意味になってしまう。そのような恐れ多い内容を帝の御前で口にするのははばかられたから。

問21 （例）「無悪善」のような高度な字謎を読み解けるのは篁しかいない以上、書いた（作った）のも篁本人に違いないと考えたから。読める＝書けるという理屈で篁を疑った。

問22 （例）「子」の字には「ね」（十二支のね）・「こ」・「し」（音読み）という複数の読み方があるから。これを組み合わせて「ねこのこのこねこ（猫の子の子猫）、ししのこのこじし（獅子の子の子獅子）」と読んだ。

問23 『宇治拾遺物語』＝鎌倉時代（前期）成立の説話集（编者未詳）。小野篁＝平安時代初期の学者・歌人（官人）。漢詩文と和歌の両方にすぐれ、「広才」（学才の広いこと）の人として知られた。